

- 日時：令和8年2月20日（金）15時00分～17時00分
- 場所：尼崎市立女性・勤労婦人センター 視聴覚室
- 出席委員：委員9名（◎=会長 ○=副会長）
岩田委員、木本委員、小林委員、○武田委員、徳山委員、◎中里委員、西村委員、
三谷委員、三宅委員
事務局4人
文化・人権担当部長、ダイバーシティ推進課長、ダイバーシティ推進課職員2人
- 関係事業者：(株)サーベイリサーチセンター（以下「SRC」という。）
- 関係所管：0名
- 傍聴者：2名

1. 開 会

- ・会議成立の報告
- ・委員、事務局の紹介
- ・事務局より配布資料の確認

2. 議 事

（2）男女共同参画に関する市民意識調査について

- ・SRCより資料の説明
(質疑応答)

委 員：表現だけの問題であるが、91ページの「1世代世帯」「2世代世帯」「3世代世帯」は、少し分かりにくいように思う。例えば国の社会生活基本調査のように、「1世代世帯」は「夫婦のみの世帯」、「2世代世帯」は「夫婦と子どもの世帯」、「3世代世帯」はこのままでも良いかもしれないが、他と合わせるのであれば「夫婦と子どもと祖父母のいる世帯」といった表現に変えたほうが分かりやすいのではないか。

委 員：「2世代世帯」には、ひとり親世帯も含むので、世代の数で表現している。

S R C：表記の選択肢でアンケートを設定していたので、ひとり親世帯、夫婦と子どもの世帯、自分と親の場合も、すべて「2世代世帯」として回答されている。

委 員：区別できない状態ということか。

S R C：そのとおりある。

委 員：そうであれば、この書き方のままで良い。

委 員：他のものも同様に、区別できない聞き方をしている場合も多いので、今後の調査では工夫が必要かもしれない。90ページのグラフは未婚・既婚・離死別とあるが、世代がわからない。例えば高齢の女性は、かなり多くの方が離死別になる可能性があり、シングルになるかどうかわからない。

18ページの女性が「L字カーブ」を描いているのはそのとおりであり、女性の正規雇用は

特に子育て期になると少なくなると言われているが、30代が50%以上もいるのは特徴的な点である。一方で、レベルは違うが男性も同様のカーブを描いており、前回の50代男性81.7%と比較すると、今回の50代男性の正規雇用が65.4%は少なく感じる。今ここで他のデータと比較することはできないが、サンプルの偏りや回答割合の偏りがあるのかもしれない。報告書に書き込むかどうかは別として、前回との差が大きいと感じた。

委員：就職氷河期世代に非正規雇用が多いことが問題になっている。5年前の40代男性の正規雇用の割合も低いので、その世代が50代になったことが今回の調査結果に表れているのではないか。

委員：前回調査は、いつだったのか。

事務局：5年前である。

委員：62ページ「性的マイノリティの人の生きづらさ」について、60代までは「思う」「どちらかといえば思う」の割合が年代ごとに概ね上昇しているのに対して、70代では下がっているのが気になった。ここで70代は下がっているが、64ページの全ての項目において70代が一番多い。70代以上の方は「生きづらい」とあまり認識していないが、具体的なことがあれば困っていると考えられるのか。

S R C：63・64ページは、62ページで「思う」「どちらかといえば思う」と回答した人だけが回答している。

委員：62ページの「性的マイノリティの生きづらさ」について、若い世代では、マイノリティに対する理解が進んできていることにより抵抗が少なくなってきたが、60代は自分の人生において介護を受ける等、難しい問題に直面することが多い世代であり、そういったことも影響して、60代は急に増えているのではないか。

委員：今の点から言うと60代は、64ページの「学校や職場でのいじめやからかい」を見聞きしてきた世代かもしれない。10～20代は「家族や周囲の人の理解が得られない」が多いということは、同世代の中では理解されるが、親の世代には理解が得られないということだと思う。解釈については、報告書に確定的なものとして入れづらいところだが、審議会の場で、各委員から推測、解釈をいただくのは参考になると思う。

委員：60・61ページで「ジェンダー」や「SOG I」の認知度は高まっているが、「パートナーシップ宣誓制度」の認知度は下がっている。

事務局：元々は「パートナーシップ宣誓制度」という名称であったが、令和7年6月に制度を拡充し「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」と名称を変更したことが影響しているかもしれない。

委員：前回の設問では、「パートナーシップ宣誓制度」として認知度を聞いていたのか。

事務局：そのとおりである。

委員：制度名称が変わったことを補足として記載書しておいたほうが良いのではないか。

事務局：注釈を入れるようにする。

委員：「ジェンダー」という言葉の認知度が大きく向上していることを強調してもよいのではないか。

委員：「ジェンダー」という言葉の浸透の変化は大きい。「大きく変化している」と強調して記載しても良いかもしれない。

委員：女性の就労に関してはかつて「M字カーブ」とよく言われていたが、今回調査では「M字カーブ」はほぼ改善されているのか。

事務局：内閣府の調査でも、M字カーブはほぼ改善しつつあるとされている。

委員：これは有配偶と無配偶の両方が含まれているが、未婚率の上昇によって「M」の底が上昇傾向にある。可能であれば、有配偶と無配偶の区別をした方が良い。

46 ページからの地域活動の役割分担では、「団体の長になる」という明らかに目に見える項目では男女の認識が同じであるが、「行事の準備や片付け」といった数字で目に見えない項目では男女の認識が違うところが気になった。女性が担っている準備等が男性に見えていないということであろうが、どのように介入していけば良いのかが課題である。

委員：46 ページ②「行事の準備や片付け」の右側「もっと男性が参加する方がよい」のグラフと凡例の柄が違っているので、修正する必要がある。

委員：46 ページの上段に、赤字が残っている。

S R C：2点とも修正する。

委員：西村委員からご指摘のあった「地域活動での男女の実態と考え」の男女の認識の違いについては、46 ページの箇条書きの2つ目に記載がある。項目ごとに違いのあり方が異なるため、このような表現になっているのか。

S R C：男性は「同程度担っている」と思っているが、女性は「女性のほうが担っている」と思っているというところで、「男女が同程度担っている」という項目で見比べると記載のとおりになる。

委員：「団体の長になる」は、男女で認識が同じであると読み取れる。

委員：男女で認識が比較的近いものと、認識の差が大きいものとは、分けたほうが良いか。

委員：気になったのは、「②行事や準備の片づけ」と「④地域活動への参加」である。これらの項目は、男女の認識の差が大きいということを記載した方がよいと思う。

(3) 第5次尼崎市男女共同参画計画の策定について（スケジュール）

- ・事務局より資料の説明
(質疑なし)

(4) その他

- ・事務局より、トレピエの再整備について説明
- ・事務局より、委員任期終了の報告

事務局：報告書は3月末に完成させるので、何かお気づきの点があれば2月中に連絡してほしい。

委員：来年度は、本審議会において、トレピエの再整備の件をどのように扱うのか。

図書館との連携について、事業者と所管課の連絡会議を設けるとのことであるが、それだけでなく、利用者も含めた意見交換ができる会議体を作ってもらえないかと、本審議会でも発言した。図書館の整備は進んでいるが、そのことに対して意見を言える場が今後どう設定されるのか。運営委員会では新トレピエの名称等について議題にあがっていたが、審議会でも同様に扱うのか。本審議会においても、トレピエの整備について毎回議題にあげてほしい。

い。

事務局：今回は、直近で決定しなければならない事項がなかったため議題にあげていないが、今後、施設の設置目的や名称等については、附属機関である女性センター運営委員会を基点としながら、本審議会においても議論を進めていくことになる。新図書館等の整備については、整備を担っている部局より、今後もタウンミーティングなどで意見を聞く場を設けていく旨の説明がなされている。

委員：担当者協議会を作るということで、図書館関係だけでなくトレピエの所管課も尼崎市の枠の中には含まれて、協議に参加するとのことであり、この審議会でもまた進捗状況をお伝えいただきたい。

- ・事務局(文化・人権担当部長)より、あいさつ
- ・会長あいさつ

会長：これをもって、令和7年度第3回尼崎市男女共同参画審議会を閉会する。

以 上